

学校教育推進室だより

東大阪市教育委員会 学校教育推進室 令和8年2月3日

〒577-8521 東大阪市荒本北一丁目1番1号 TEL06-4309-3268

学校教育基本目標

すべての子どもに生きる喜びとあすをつくる力を

重点目標

総合的視点に立つ教育の推進

人権尊重に徹した教育の実践

「探究と対話」をもとに学び続ける教職員へ

信頼に応える学校づくり

学校園・家庭・地域の協働

愛ガード運動協力員のみなさま「いつもありがとうございます」

いつも、子どもたちの「いきます」と「ただいま」を優しく見守ってくださり、心より感謝申し上げます。

「地域の子どもは地域で守る」という合言葉とともに歩みを進めた「愛ガード運動」は、今年で21年目を迎えました。これほどまでに長い年月、活動が続いてきたのは、ひとえに協力員のみなさまおひとりおひとりの献身的な支えがあったからこそだと考えています。雨の日も風の日もみなさまが毎日、通学路に立ってくださり変わらぬ笑顔でかけてくださる「おはよう」「行ってらっしゃい」「気をつけてね」という一声が、子どもたちの安心感につながっています。



また、各小学校では、協力員の皆さまへ子どもたちから感謝の気持ちを伝える集いや、学校行事へご招待するなど、皆さまとの繋がりを深めるための工夫を凝らしております。子どもたちが感謝を言葉にすることで、地域とのつながりや、思いやりの心を学ぶ貴重な機会にもなっています。

まだまだ身に凍みる寒さが続いております。どうかご自身の健康を最優先に考え、決してご無理をなさらないようご自愛ください。皆さまの温かい眼差しが、これからも子どもたちの健やかな成長を支える灯（ともしび）であり続けることを願っております。今後とも、可能な範囲でのお力添えを、どうぞよろしくお願い申し上げます。



最後に、今年度は近畿大学体育会本部の学生を中心として、近畿大学の学生たちが愛ガード運動へ参加してくれました。併せて、今年度も近鉄ライナーズの選手の方々に愛ガード運動に協力いただき、子どもたちの見守り活動を進めています。子どもたちの安心・安全な登下校環境の確保や、持続可能な見守り体制を構築するため、新たな愛ガード運動協力員さんの登録が必要となっています。

新たに協力いただける方がおられましたら、各小学校にお問い合わせください。

◎市民の方へのおしらせ・おねがい

大阪府警から推奨されております「ながら見守り」（お買い物や散歩の無理のない範囲で、登下校の時間帯に行う見回り活動）も愛ガード運動の一つです。

「愛ガード運動」の趣旨をご理解いただき、子どもたちが安心・安全に登下校できるよう、今後とも、市民のみなさまのご協力をお願いいたします。

クラウドがつなく、子どもたちの新しい学びのカタチ



本市では、令和8年度4月から児童生徒用端末をiPadからChromebookに更新します。これを機に端末を「日常の文房具」のように使いこなす環境づくりをさらに推進し、子どもたちが日々探究心を持ち、自ら問いを立てて解決する力を育てていきます。

また、一人ひとりの個性を尊重しながら、クラウドの強みを活かした「協働的な学び」を一層充実させていきます。

本市で実証としてChromebookを先行導入した授業の様子を紹介します。

| レポートの評価基準 | |
|-----------|---|
| A | B評価に加えて、人々の生活や文化、産業への影響について具体的な例を挙げて説明できる。 |
| B | オセアニア州の地域的な特色を、ほかの地域との結びつきが変化してきた背景にふれて説明できる。 |

レポートのヒント

オセアニア州の地域的な特色をとらえよう。

オセアニア州のほかの地域との結びつきはどのように変化してきたかを考えよう。

地域の結びつきの変化によって、人々の生活や文化、産業はどのような影響を与えているかを考えよう。

学習の見通しを立て、自分のペースで学ぶ



先生は子どもの学習状況をリアルタイムで即座に把握し、個別に声掛けやアドバイスが行える。

クラウド上で友だちの意見等を参照し、自分の考えを修正したり、深化させたりする。

東大阪市が掲げるビジョンは、クラウド環境を基盤とした「主体的・対話的で深い学び」の実現です。変化の激しい社会を生き抜くために、子どもたちがICTを駆使して「自ら学び方を調整する力」を身に付けることは、子どもたちの創造性や発信力を大きく広げるものであり、将来の道を切り拓くために必要といえます。

「いのち」に学ぶ 獣医師による出前授業

実施校園

枚岡幼稚園・英田北小学校

今年度も獣医師による出前授業を開催しました。この事業は、一般社団法人東大阪市獣医師会と教育委員会が連携し、ウサギの飼育活動をしている学校園の子どもたちを対象に平成16年度から実施しています。

最初に、獣医師の先生から、ウサギの性質や特徴、接し方等に関して、クイズを取り入れながら楽しく説明していただきました。日ごろ大切にしているウサギに関わる様々なお話を、子どもたちは真剣に聴きっていました。普段ウサギをお世話している中で感じている疑問について、獣医師の先生に積極的に質問する様子も見られました。



〈獣医師による授業〉

その後、聴診器を活用し、飼育しているウサギ等の「心音」を聴かせてもらいました。子どもたちは、自分の心音とウサギの心音を聴き比べるなどし、ウサギの鼓動の速さに、とても驚いた様子でした。

心音という「いのちの音」を通して「生きていること」を直に感じ、自分たちが預かる「いのち」の大切さについて改めて実感できた貴重な体験となりました。

この経験を通して、自他を慈しみ、生命を尊重する心、責任や役割の自覚、生物に関する興味・関心など、豊かな心が育まれることを願っています。



〈ウサギの心音を聴く様子〉